

例会日：毎週木曜日 18 時 30 分 例会場：関観光ホテル 住所：関市池尻 91-2
事務局：関市西本郷通 5-2-53 TEL (0575) 24-7332 FAX (0575) 23-5278
会長 波多野篤志 副会長 古田博文 幹事 吉田和也 クラブ会報委員長 塚原康寿

2018~2019 年度 関中央ロータリークラブ会長テーマ
「自ら行動するロータリーへ！」



インスピレーションになるう

4つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

本日のプログラム 第 1955 回例会 2018 年 10 月 25 日 (木) 担当 会長・幹事
『 C. A 地区大会報告 』
『 卓話 関市国際交流協会 副会長 西村 朋也様 テーマ 関市国際交流協会について 』

前例会の記録

第 1954 回 2018 年 10 月 11 日 (木)
卓話 犬山焼窯元 後藤陶逸陶苑 後藤武徳様
テーマ 「犬山焼の過去、今、未来」

*ロータリーソング「我等の生業」斉唱

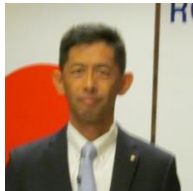
*お客様の紹介

犬山焼窯元 後藤陶逸陶苑 後藤 武徳様

*会長あいさつ 波多野篤志会長

10月24日は世界ポリオデーです。この日は、ポリオワクチンを開発したジョナス・ソーク博士(1914~1995)の誕生日を記念して定められた日だそうです。世界中のロータリークラブや地区がポリオ撲滅を目的としたイベントが実施される日です。昨年は102か国で3,671件のイベントが開催されたそうです。

当クラブも先日の6,7日(土、日)の刃物祭りに



てポリオ撲滅の募金活動を関ロータリークラブと合同で行いました。当クラブの多数の会員の方にご参加いただきまして大変有難うございました。

6日(土)は、関商工のインターアクトクラブの学生さんも数名参加してくれました。6日は、台風の通過に伴う影響もあり突風が吹いたり、通り雨が降ったりでしたが、何とか大崩れすることなく開催できました。日が変わって7日(日)は、朝から晴天で非常に良い日になりました。おかげさまで祭り参加者も大勢になり大変な賑わいになりました。日中は日差しも強く大変暑い日になりました。そんな炎天下の中でもポリオ撲滅の募金活動に声を上げていただきまして有難うございました。

6日の義捐金額は62,360円でした。7日の義捐金額は93,695円で、総額156,055円となりました。こんなに多くの募金が集まると思っていなかった為、大変驚きましたし、大変ありがたく思いました。又、今回の活動で、当初の目的でもありました、ポリオ撲滅の大切さを多くの人に知ってもらおう活動を広く

一般の方にひろめることもできましたし、ご協力もいただきました。又、会員の意識向上もできたと思います。今後もポリオのない世界を実現するために、ポリオ撲滅活動をよろしくお願いします。又、今回頂いた募金は、関ロータリークラブと半分ずつに分け、地区のポリオ・プラスの募金に寄付しますので、よろしくお願いします。

次に、11月16日(金)～29日(木)までマーゴシネマ館にて、ロータリーのポリオ撲滅活動の一環である、映画「プレス しあわせの呼吸」が上映されることが決まりました。この映画は、文部科学省特別選定に成っています。この作品は、ポリオによって全身マヒになり、人工呼吸器をつなげながらも自由な発想とユーモアで明るく自分らしく生きる実在の主人公ロビン・カヴェンディッシュと、妻ダイアナを描く感動作です。今回の上映に先立ちまして、11月16日(金)にマーゴシネマ館にて午後7時より関ロータリークラブが貸し切りで上映することに成りました。当クラブも参加しますので会員のみならずも夫婦、お知り合いを連れてご参加ください。参加費は、クラブ負担とします。一人でも多くの方にポリオのことを知ってもらいたいため、大勢のご参加をお願いします。

今週の10月13日(土)と14日(日)は2018-2019年度国際ロータリー第2630地区 地区大会です。今年は、岐阜加納ロータリークラブがホストクラブで長良川国際会議場と岐阜都ホテルで開催されます。第1日目は、13時10分より岐阜県立岐阜商業高等学校吹奏楽部の演奏です。13時30分より開会・点鐘です。当日参加していただける方は、13時を目途に集合してください。食事は出ませんので各自で済ませて来てください。17時に閉会・点鐘となります。その後、会場を岐阜市内の「うお義」に移しまして親睦会を開催します。第2日目は、9時15分より開会・点鐘となります。9時を目途に集合をお願いします。この日の記念公演は、アグネス・チャンです。皆さんにとって丁度良いアイドルかも知れません。当日のご参加よろしくをお願いします。

*卓 話

犬山焼窯元 後藤陶逸陶苑

後藤 武徳 様

テーマ 「犬山焼の過去、今、未来」



愛知県犬山市にて、犬山焼という

陶器を製造、販売しております。後藤陶逸陶苑 後藤武徳と申します。この中で犬山焼の器を持っている、使っているという方はいらっしゃいますか？

犬山焼という陶器は、知る人ぞ知る焼き物で、全国的にもあまり知られておらず、地元の人でも知らないこともあります。関東や関西などから犬山焼を求めて来て下さる方もあります。

犬山焼の歴史は、江戸時代の初めごろ、犬山市東部の今井地区に、山続きとなっている美濃焼の陶工が、陶器を作る土を探し当て、その地に窯を築いたのが始まりとされています。

この今井に築いた窯を「今井焼」と呼び、瀬戸風の餡色や黒色の釉薬を施し、主に日用品として生産されていましたが、80年ほどで廃窯してしまいました。

今井窯の廃窯を知った当時の犬山城主成瀬公により、20年ほど経った後に、犬山市北部の丸山地区に窯が築かれました。

近世の犬山焼は、京都や瀬戸、名古屋などから陶工、画工と呼ばれる職人を招き「赤絵」を描くようになりました。また、犬山城主成瀬公により「雲錦手」と呼ばれる桜と紅葉をとりあわせた文様も描かれるようになりました。これが現代の犬山焼のもととなっています。丸山地区に築かれた「丸山焼」は犬山城主の御庭焼として発展してきましたが、明治時代に入り廃藩置県により廃窯となり、その後に各々で始まり8軒ほどの窯元がありましたが、今に続く窯元は3軒となっています。

私の先祖も明治5年から8年の間に開窯して以来、現在父の代で4代目と長い歴史ある窯です。

私も子どもの頃、父の仕事する横で、陶器を手作りしている様子を見ていたり、納品や配達などについて行っは「この子が後継ぎか」などと言われたりして、幼心になんとか大人になったら父と同じ仕事をするのかなと思っていました。私が中学生の

時に、3代目の祖父から「この仕事を継いでやってほしい」と言われたのが、自分が今の仕事をする大きな後押しとなったと思っています。高校までは地元の学校に通い、卒業後に多治見市の多治見工業高校専攻科で陶磁器の基礎を2年間学びました。卒業後、父の元修業に入り、修業に入ってから、ろくろを使い色々な器を作ることを学んでまいりました。

まだまだ知られていない犬山焼を、もっと多くの人に知ってもらいたい、もっと多くの人の手にとってもらいたいと思っています。しかしながら、全国の有名な焼き物の産地でも、中国製の安価な焼き物や、機械で作られた量産物の影響もあり、焼き物業界全体は厳しい状態です。陶器の売り上げとしても全国的に伸び悩む中で、私どもの犬山焼も例外ではなく、昔から変わらず、手作り、手描きという良さを生かした新製品作りをめざし日々研さんを重ねているところです。まだまだ思うようにいっていないのが現状でした。そんな折、犬山市が城下町の町おこし観光に力を入れるようになり、私の所では、製造、販売以外に、お客様が実際に土からろくろを使い、自分の器を自分の手で作ってもらう、ろくろ体験を始めました。犬山市を訪れる観光客がだんだんと増えてくるのと同時に、ろくろ体験に来てくださるお客様も増えてまいりました。また、普段制作している茶道具で使われる抹茶茶碗や水指、ご飯茶碗や湯飲み、マグカップやコーヒーカップ、皿、鉢等色々な器を作る中で、7年前から陶製の風鈴を作り始めました。この風鈴を作るきっかけとなったのは、犬山商工会議所の知り合いの方との親睦会で「犬山の地元で作る犬山焼で、風鈴があったら、夏場の犬山を少しでも盛り上げられるかもしれないよね」と話が出ました。私も以前から風鈴を作ってみたらどうだろうかと思っていましたので、そこから風鈴の制作が始まりました。有名な焼き物の産地では、陶器で作られた風鈴は決して珍しくはなかったのですが、当時犬山焼としての風鈴はまだ作られてはいなく、商品として完成させるまでに半年ほどかかりました。

試作が焼き上がり、ひもと短冊を結びつけ、音を

出そうと思っても音が鳴らず、台風ほどの強風でしか音が出ませんでした。その時、音の出ない原因はわかったのですが、実際、風鈴を作ってみてわかった事は、音の出る仕組み、ひもや短冊によって音色が変わることでした。ひもや短冊にもこだわりを持って、ようやく納得いく音色の風鈴が完成しました。こだわりの風鈴が完成し、作るきっかけとなった商工会議所の方にも見てもらい、さて次はどのようにこの風鈴をより多くの人に知ってもらうかを考えました。

最初の夏は、犬山城下町の通りにあるお店の軒先、家の軒先に風鈴を飾ってもらえるようお願いして、観光客や地元の方々に見ていただき、音色を聴いていただきました。翌年の夏には、名鉄犬山駅のコンコースにたくさんの風鈴を飾らせてもらうことができるようになり、毎年多くの方々に知って頂けるようになりました。この風鈴は「犬山風鈴」と名付けてもらい、犬山駅のコンコース、犬山城の近くにある犬山神社等に毎年飾っていただいています。今年、メディアにも取り上げられ、より広い地域の方にアピールできたと皆で喜んでおります。

風鈴を作る過程で、手作りならではの大きさの違い、厚さの違い、形の違い等から、一つ一つ音色が異なることに気付きました。お買い求めいただく際には、色、形、音色からお気に入りの一品を選んでいただくことができます。一つ一つ個性の違う音色の風鈴ですが、もっと良い音色をより多くの人に聞いて頂き、もっと多くの人に選んで頂けるようにこれからも丹精込めて作り続けていきたいと思っております。

私がこの仕事を始めて20年が経ち、やっと20年というよりは、まだまだ20年というのが正直なところです。陶器を作る工程においても成功することも失敗することもあります。自分が納得できる物が作れるようになり、その器をお客様が手にとって喜んでもらえることが私の喜びです。「日々作陶」していくことで、町おこしに貢献させていただきながら、地域の活性化の一助となることを目指しています。

私は父の後には、5代目となるわけですが、この犬山焼を地域の方々に愛され、生活に寄り添える焼き物作りの技術を後世に引き継ぎ、伝承していく役

割があると思っております。

また皆様も犬山へお越しの際には、犬山風鈴の音色に耳を傾けて頂きながら犬山城の城下町風情を味わってみてください。

***出席委員会**

会員数 34 名、本日の出席 23 名です。

***ニコボックス委員会**

・会長・副会長・幹事

本日は犬山焼窯元 後藤様 お忙しい所卓話に来て頂きありがとうございます。「犬山焼の過去、今、未来」どの様な話が楽しみにしております。宜しくお願い致します。

・加納淳至君

後藤武徳さんよろしくお願い致します。

・小澤重忠君

犬山焼窯元 後藤武徳様のご来場を歓迎して。

23 名のご投函ありがとうございました。

***幹事報告**

・10 月 13 日、14 日地区大会について連絡

・映画『ブレス しあわせの呼吸』鑑賞会のご案内

<次例会の案内>

第 1956 回 2018 年 11 月 4 日（日）

森林整備例会（里山）

場所：ふどうの森 受付：午前 8 時 30 分～

担当：環境保全委員会・インターアクト委員会